

本線分科会での検討状況

1. 路線の現状分析

- ・富山地方鉄道本線は路線距離 53.3 kmが富山市、舟橋村、立山町、上市町、滑川市、魚津市、黒部市の7市町村に跨り運行されている。また、滑川駅～新魚津駅間では、あいの風とやま鉄道が並行運行している。
- ・上市駅以東の区間ごとの駅平均利用者は、平日は「上市駅～滑川駅間」が最も多く、休日は「新魚津駅～宇奈月温泉駅間」が最も多い。
- ・本線は、沿線住民の生活（通勤・通学・買い物等）を支える暮らしの足として、また、県内外からの観光客の移動手段として重要な役割を果たしている。特に、市町域を越えて通学する高校生にとっては、欠くことのできない日常の移動手段であり、上市以東の沿線に存在する7つの高等学校に通う生徒の約3割が本線を利用して通学している。一方で、県東部の重要な鉄道ネットワークを構成しており、県東部の観光周遊ルートを形成している。今後、黒部宇奈月キャニオンルートの開業を契機として、更に県全体や北陸全体に観光をメインとする経済効果が波及していくことが期待されている。

2. 分科会の開催状況

●第1回本線分科会 (R7.7.1 開催)

[議題]

- ・富山地方鉄道本線あり方調査業務について
- ・令和8年度の対応について（鉄道事業運営に係るモデル試算等）

[議事要旨]

- ・本線のあり方調査の中間報告を受けて、令和8年度の行政負担について分科会としての方向性を取りまとめることとした。

●第2回本線分科会 (R7.11.29 開催)

[議題]

- ・本線あり方調査の中間報告について（富山地方鉄道本線あり方調査業務等）

[議事要旨]

- ・富山地方鉄道本線あり方調査の中間報告において、本線の運行状況（輸送状況等）、必要性（高校生の利用割合、観光客の利用者数推計等）、上市駅～宇奈月温泉駅の運行形態（6パターン）の比較、利用者を増やす取組案などを示した。
- ・運行形態は、鉄道ネットワーク維持と利用者の利便性の観点から、①現行路線維持、②あいの風とやま鉄道との並行区間の営業運行を廃止（車両回送に使用）、③同区間を廃止撤去（車両回送も行わない）の3パターンに絞り込んで今後の検討を進める。
- ・本線のあり方について、丁寧に論議する時間を確保するため、令和8年度について、本線を含めた全線を一体で支援する方向で、12月のあり方検討会で、対応を協議することを確認。

3. 今後の方針

- ・最終報告に向け、絞り込んだ運行形態の概算経費、利用者を増やす取組に係る概算費用を明らかにし、運行形態ごとに課題等を取りまとめる。